法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-02-05

宮城県気仙沼の遠洋漁業と気仙沼水産倉庫(2)

大崎，晃

(出版者 / Publisher)
法政大学教養部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学教養部紀要．社会科学編 / 法政大学教養部紀要．社会科学編
(巻 / Volume)
102
(開始ページ / Start Page)
9
(終了ページ / End Page)
38
(発行年 / Year)
1997-02
(URL)
https://doi.org/10.15002/00004784

Hosei University Repository

宮城県気仙沼の遠洋漁業と気仙沼水産倉庫（2）

大　崎　　晃

目　次

Ⅰ　漁村産業組合の概観
Ⅱ　気仙沼水産倉庫の構成（以上前号）
Ⅲ　気仙沼水産倉庫の経営
Ⅳ　気仙沼における遠洋漁業の発達

Ⅲ　気仙沼水産倉庫の経営

産業組合気仙沼水産倉庫の事業は，先述したように組合の正式名称でもある信用（事業資金貸付と清算金取立および口座貯金），販売（加工品および魚市場を通しての鮮魚貝受託販売），購買（副原料・資材の購入と組合員への売却），利用（加工仕上げと倉庫保管の受託）にあった。組合が活動した大正14年から昭和25年までの事業と経営を，各年度の事業報告書の分析を通じ時系列を追って次に概観する。

大正14年10月15日第1回の出資払込（出資口数1,075口，1口50円のうち5分の1）が終わると，組合は水産加工品の保管倉庫と加工設備の建設に着手した。まず町内字一景島の町有地5反歩を3,000円で気仙沼町より払下げを受けて工費9,000円で用地造成にかかり，翌大正15年3月末に工事は完了した。組合の第1年度は資産形成に重点がおかれ，本格的事業開始は次年度からになった。

大正15年7月初め，倉庫上屋の建築（工費25,946円）工事が竣工し，保管倉庫1棟，節削作業室1棟，徴付室2棟，燻乾装置1カ所，殺菌室1棟，日乾場1カ所，鮫鰭乾場1カ所を備え8月1日から事業を開始した。資金の調達は，農林省の産業組合共同設備奨励金7,238円と宮城県から奨励金4,000円が交付されたが，主力は産業組合中央金庫からの借入金で，この年は108,700円

Hosei University Repository

（年利率 8.395%）だった。倉庫業務は，不況で資金繰りが苦しい鰹節製造業者に加工施設利用の便宜を提供し，荒節三番微仕上げを基準に 1 樽 13 貫（仕上げ加工後は 10 貫に相当）の加工料を本節 9 円，亀節 8 円とした。さらに加工以外にも各製造所仕上げ品の保管手入れと，この受託品を担保に資金の貸付を行い，一時は貸付金額の 70%以上がこの担保融資だった（表 5)。保管品担保の融資額は，仕上げ前の荒節 1 樽（13 貫）について 40 円，仕上げ後の 1 樽（10 貫）当たり本節 70 円・亀節 67 円に対して，それぞれ 60%の融資を仕上がり販売前に受けられる効用があった。この鰹節を担保にした融資は当然鰹節製造[1] を対象にしたもので，竹輪蒲鉾製造[2] には始業資金貸付の便宜はなかったが，原料鮫購入資金の手当として竹輪蒲鉾販売代金の取立を産業組合中央金庫へ委託したことで当座貸越の制度を開始した。この年の鰹節加工仕上げ品は 1,500 樽だったが受託販売量は僅か 48 樽にすぎなかった。初期の組合は販売事業よりも購買事業が重きをなし，竹輪蒲鉾の副原料である砂糖・味淋・澱粉と荷造函等 3 万余円を購入して組合員製造業者へ売却したが，これは当時気仙沼の竹輪蒲鉾副原料の 60%を越えていたという。

昭和 2 年度は，荒節半製品の加工委託と各製造所製品の保管委託が増加し，鰹節担保の貸付金も相当額にのぼった。これは鰹節・竹輪蒲鉾の市場価格が低迷し採算上出荷を調節する際の資金にあてられた。竹輪蒲鉾副原料購買量は当地需要量の 80%に達したが，一括買付による価格低廉によるものである。この年の荒節加工委託は 1,942 樽で，これに各製造所からの保管委託 1,700 樽を加えると委託品は気仙沼全生産量の 50%であった。ちなみに当時水産倉庫の節削職人は 86 人で全国から集まり，他に雑役従業員 80 人がいた。

昭和 3 年度は，年度末の昭和 4 年 2 月 24 日町は大火に遭遇し，組合も事務所が類焼し組合員の多数が被災した。この災害は年度末まであと 2 カ月を残すばかりだったので，年間の業績は，鰹節半製品加工委託と各製造所製品保管委託量は前年度並みだったが，当地の全生産量に近い鮫鰭加工委託品を加えた担保貸付が増加した。組合員の竹輪蒲鉾販売代金取立の産業組合中央金庫委託（代手取立）と同時に始められた貸越契約で開かれた口座貯金と，当組合と提携する水産関係組合の貯金も急増した。また 2 月の大火で罹災休業した竹輪蒲鉾製造所の副原料の滞貨が嵩み，これを組合が救済のために買戻したので，組合の購買品残高が膨張した（表 1)。

昭和 4 年度は，2 月の大火の復興にとりくみ，罹災者への貸付金需要増加に

Hosei University Repository

応えるべく借入をふやした。内訳は産業組合中央金庫から前年の倍額の 40 万円（年利率 7.48%）の他に，新たに信用組合連合会 6 万円（同 7.66%），日本勧業銀行 1 万円（同 5.9%），宮城県農工銀行 6 万円（同 5.4%）が加わった（表 4）。貸付金は有担保・無担保ともに増加し，担保には組合倉庫への委託品の他にこの年から不動産（土地・建物）が加わった。貸付目的も鰹・鮫漁業資金，鰹節加工・鮫鰭製造資金の他に，罹災工場復興資金を設け罹災者に便宜を提供した。しかし竹輪蒲鉾は価格低迷のため製造業者からの副原料売却代金の支払いが遅延し，組合の負担（未収売却代金）が大きくなった。この年の鰹節加工委託料が，仕上り品 2,500 樽で組合創業以来最大となり当地生産量の 60%をしめたのは，罹災業者の復旧の遅れを示している。

昭和 5 年度，鰹漁は平年並みだったが経済界の不況で「七月漁価暴落シ逐ニ二文台ヲ割ルノ恐慌相場ヲ演ジ」(3)，貫当たり 2 円の鰹節は生産の調整で半製品加工委託量は前年の半分以下になった。一方竹輪蒲鉾は，不況による副原料価格の低落で生産費の軽減となり製造者に有利なはずだが，原料の鮫漁が例年の 3 分の 1 以下の不漁で生産が減った。この減産と価格低落が製造業者をおいつめ，売り急ぎがさらに事態を悪くし，組合の貸付も委託品が少ないので担保が減り貸付金も減少した混乱の年であった。この年から組合施設の利用料（加工料・保管料）は 25%引下げられた。

昭和 6 年度，水揚量は順調だが魚価の低落が大きかった。当地の二大産品である鰹節と竹輪蒲鉾の出荷がとどこおって組合の鰹節保管量も増え（表 8），また金融破綻も業界を不安におとし入れた。これに対し組合は，鮫鰭の中国向輸出杜絶に際し共同販売を目的とする長期保管とこれを担保にする金融，鰛締粕製造資金の貸付と販売の斡旋，施設利用料を前年に引続いて 20%引下げる等の処置をとった。なお鰹節は価格低迷ながら原料鰹の順調な水揚と安値で，組合への委託量は旧年の水準に復した。

昭和 7 年，鰹節は鰹の水揚げが少ないにもかかわらず価格は相変わらず安く，組合への委託量は前年の半分に減った。鮫鰭は中国向輸出待期の委託保管品に，鰛締粕は不況対策として全購連へ共同販売する入庫品にそれぞれ融資された。なお当年度も利用料が三たび 20%引下げられた。

昭和 8 年度，大型漁船の増加で鰹鮪漁は好漁の上高値をつけたが，鰹節の市況は相変わらず低迷した。鮫鰭は中国向輸出杜絶のなか滞貨量は 4 万余貫にも達したが，その後 3 万余貫を売却した。鰛締粕は鰛の不漁で前年の 20%にも

Hosei University Repository

足りず組合の受託販売量も減った。

昭和9年度，遠洋漁業の水揚は好調だが鰹節の市況はいぜん沈滞のままだった。本年度期末の昭和10年4月11日，組合は新たな事業展開となる魚市場の業務を開始した。組合にとって永年の懸案だった魚市場は，当地の商慣習や問屋業者の利害と錯綜して調整に長い時間を費やしたがようやく実現にこぎつけ，地元水産業界の構造変革にとっても重要な意味をもった。魚市場の開設者である気仙沼町から，組合は業務者に指定され鮮魚貝の受託販売を行う(4)。魚市場運営資金の調達には，産業組合中央金庫の特融資金7万円をあてるとともに，中央金庫27万余円（年利率6.387%）と宮城県信用組合連合会11万余円（同6.935%）の増額借入を行った。魚市場は独立会計とし，組合の収入は販売手数料で販売額の8%（機船底引網は10%）だが，問屋3.7%（新問屋2%）仲買人2%の歩戻し金があった。この年は市場開設から年度末まで20日を残すのみなので水揚げ高は10万余円だった。

昭和10年は実質的な魚市場第1年目にあたる。水揚高は355万余円，内訳は鰹67万余円，梶木60万余円，鰛32万余円，鮪31万余円，鮫21万余円その他であった。魚市場の運営には85人の問屋・船主と186人の仲買人が参加し，金融的にも産業組合中央金庫から17万余円の借入契約と信用組合連合会の随時短期貸付の支援をとりつけた。組合は組合員の販売品代金取立を産業組合中央金庫を通じて行ってきたことは先述のとおりだが，中央金庫から鰹節・鮫鰭・魚肥・魚油の4品目は割引取引が得られることになった。この取立代金をはじめ東京中央卸市場等から当地仲買人への支払い金は，小切手あるいは組合員の当座預金口座へ振込まれ，この年の受入貯金総額は458万余円にのぼった。組合は今後組合員の自営船が地元外へ水揚した場合の代金にも，同様措置の協力を要請した。組合はまた貸付金の効率化をはかるために貸付先の再検討と一部の整理をはかるとともに，新規の貸付は遠洋漁船の出魚準備資金と問屋仕込資金に止めることとした。この年は遠洋漁業が鰹釣および鮪延縄ともに好況で，その上価格も上向きつつあり，遠洋漁業の発達にとって恵まれた条件にあった。組合は創業当初，当地が京浜等大消費地市場から遠隔に立地する条件から，鰹節・竹輪蒲鉾等の加工・保管・原料供給・資金貸付等を通じて加工業振興に重点をおいてきたが，この部門の市況は意に反して低迷が続いた。こうしたなかで，冷凍技術・交通の発達，漁船大型化と遠洋水産物の大量供給を背景に，新たな鮮魚貝流通組織と施設（魚市場）が構築された。魚市場を業務の

Hosei University Repository

中心にすえてから組合の経営もまた安定にむかい，配当金も払込出資金の3%以上を持続し，また役員賞与の支払いも可能になった（**表3**）。

昭和11年度は各種漁業が好況で，魚市場水揚高は421万余円に達し，当初懸念された未収売掛金も7万余円で取扱額の1.7%に止まった。この年は鰹が豊漁で全国的に鰹節は生産過剰で滞貨も多く，組合保管分も過去最大の約6万貫になった。竹輪は原料魚価が高くて採算がきびしく，魚肥は鰮が不漁だった。このため担保貸付も増えたが，払込済出資金5万余円，積立金・準備金2万余円の自己資金不足を補うものとして，年度末残高でも18万余円の組合員貯金の存在が大きい（**表1**）。

昭和12年度は戦時体制に入り，資材不足と価格騰貴が産業界を苦しめた。軍需景気の鰹罐詰を除くと，鰹節は過剰生産と滞貨で市況が低迷し，魚肥は鰮の不漁，竹輪蒲鉾は原料鮫の不足でいずれも不振が続く中で，魚市場の鮮魚貝水揚高は424万余円を記録した。

昭和13年は戦時統制経済下におかれ，綿糸網等の統制品は漁連経由の配給になり，組合も配給組織の末端を担うことになった。しかし魚市場は水揚高525万余円と物価高の時流もあって最大値を更新した。鰹節は全国的に品不足で高値となり，鮫鰭も中国市場向輸出のきざしがみえて委託保管量が増え，両者とも時価高騰のため貸付評価額を高くしたので，担保貸付金も膨張した（**表5**）。

昭和14年，戦時統制配給経済が更に強化された。鰮締粕は配給になって組合は指定集荷人となり，購買品では漁船用燃料油や竹輪蒲鉾副原料の砂糖・味淋等は入手が困難になった。物資の欠乏は一方で物価の高騰を呼び，魚市場水揚高は780万余円と前年度をしのぎ，鰹節・竹輪蒲鉾は高値で生産が好調で，鮫鰭の中国向輸出も増加した。したがって組合保管の鰹節・鮫鰭の時価・貸付評価額も上ったので，担保貸付金も前年に引続き増加した。その一方で組合への預貯金も急激に膨張し，戦時インフレ経済の混乱をみることになった。

昭和15年度は戦時体制が一層強まり，原料が欠乏し品不足になった鰹節と鰮締粕の価格が高く，砂糖が不足した竹輪蒲鉾は薩摩揚に活路を見出した。魚市場水揚高は907万余円と前年を上まわり，天井知らずの物価騰勢に政府は昭和15年9月魚類に対し公定価格を実施した。組合員の貯金は年度末残高104万余円に達したが，貸付金の需要は10万余円と少なく，漁業資材や製造品原料が不足する状態では投資に慎重になりインフレ状態が続いた。

Hosei University Repository

表1 気仙沼水産倉庫各年度

年度	払込未済出資金	中金・信連等系統機関出資金	貸付金	預金	固定資産有価証券	購買品残高 購買掛売金
	円	円	円	円	円	円
1年（大正 14）	37,050	349		7,095	7,376	
2 （昭和 1）	30,200	2,000	29,395	14,952	47,716	1,373
3 （ 2）	29,800	3,500	34,660	11,699	48,029	3,233
4 （ 3）	34,950	4,400	63,071	13,037	51,958	11,170
5 （ 4）	34,044	4,400	114,939	2,649	51,989	1,585
6 （ 5）	30,952	5,400	114,520	3,430	51,989	3,703
7 （ 6）	30,926	8,500	151,191	837	51,989	1,310
8 （ 7）	30,826	8,500	125,094	20,858	51,989	13,540
9 （ 8）	29,197	9,000	113,882	31,651	52,039	2,902
10 （ 9）	39,912	9,000	108,202	47,078	53,291	13,343
11 （ 10）	39,460	9,000	118,750	17,573	65,566	33,345
12 （ 11）	43,866	17,500	143,507	73,732	63,037	37,162
13 （ 12）	34,539	18,500	192,880	19,331	63,137	24,325
14 （ 13）	28,801	18,500	162,724	188,398	62,968	37,026
15 （ 14）	23,570	22,000	92,440	649,366	65,440	44,819
16 （ 15）	17,998	22,000	108,024	869,927	69,643	80,811
17 （ 16）	13,689	24,500	93,926	813,817	87,250	63,805
18 （ 17）	13,314	24,500	115,125	874,793	103,262	45,502
19 （ 18）	10,160	24,500	132,333	607,147	142,861	92,216
20 （ 19）	8,638	26,500	120,385	853,427	146,813	105,885
21 （ 20）	6,971	26,500	516,362	1,728,455	270,189	430,741
22 （ 21）	6,971	26,500	2,042,500	2,078,401	246,626	3,298,828
23 （ 22）	6,758		3,147,709	1,599,057	749,564	8,949,325
24 （ 23）			2,607,500	1,075,216	897,688	6,772,984
25 （ 24）			2,567,500	482,468	900,688	4,604,891
26 （ 25）		10,000	2,314,000	6,005,417	5,360,803	9,244,753

Hosei University Repository

貸借対照表（貸方の部）

未収入売却代金 鮮魚貝販売掛売金	未収入利用料	備品	仮渡金	本年度損失金	現金	合計
円	円	円	円	円	円	円
		51	1,200	651		53,771
20,902	3,633	4,853	147	3,714		158,885
17,133	2,015	6,264	848	3,980	24	161,185
3,035	4,161	7,105	3,255		705	196,847
37,668	3,756	7,560	2,522		5,220	266,332
13,802	1,312	7,871	3,756		810	237,545
21,794	6,855	8,223	2,339		3,595	287,559
	926	8,306	1,805		4,025	265,869
	1,736	8,105	1,632		1,738	251,882
62,096		13,167	1,964		8,199	256,251
124,730		11,377	4,590		25,086	449,477
74,633		8,811	3,946		65,663	531,857
94,805		6,520	1,273		64,781	520,091
62,089		5,638	1,055		77,287	644,486
81,952		5,153	6,716		105,919	1,104,375
70,976		14,078	15,824		141,851	1,411,132
206,228		16,942	20,919		161,797	1,502,873
205,641	38,507	13,910	21,230		43,628	1,499,412
142,292	24,532	(固定資産へ)	91,657		96,307	1,364,005
15,414	44,727		125,885		111,566	1,559,240
872,815			1,041,375		1,089,147	5,982,555
1,807,782			2,163,412		1,030,810	12,701,830
3,299,122			3,405,888		452,170	21,609,593
2,314,694			3,803,193		3,161,939	20,633,214
11,434,744			6,735,223		2,204,798	28,930,312
35,910,196		409,959	6,319,110		12,296,031	77,870,269

Hosei University Repository

表1　（借　方　の　部）

年度	出資金	中金・信連等系統機関出資未済金	貯金	借入金残高	未払貯金利息未払配当金	購買掛買金
	円	円	円	円	円	円
1年（大正 14）	53,750				20	
2　（昭和 1）	54,250	1,394	25,673	64,700		
3　（ 2）	55,250	2,457	30,107	56,500		
4　（ 3）	64,750	2,701	66,062	48,000		
5　（ 4）	65,500	2,124	71,428	104,626		967
6　（ 5）	65,500	1,987	46,428	103,844	63	1,931
7　（ 6）	65,500	4,068	44,345	157,335	38	
8　（ 7）	65,500	3,076	45,378	132,746	38	
9　（ 8）	65,500	2,551	52,549	110,550		2,167
10　（ 9）	79,550	1,538	71,334	181,905		746
11　（ 10）	83,200	563	134,109	149,476	1,769	
12　（ 11）	99,350	3,466	188,737	128,713	2,404	10,428
13　（ 12）	102,050	2,728	184,867	110,177	2,221	5,805
14　（ 13）	104,800	1,551	370,011	20,680	3,193	
15　（ 14）	106,700	3,806	746,170	15,360	6,109	2,117
16　（ 15）	109,050	4,158	1,044,366	15,360	9,611	
17　（ 16）	109,550	5,731	1,012,949		125,339	2,760
18　（ 17）	115,450	592	871,263		268,426	
19　（ 18）	116,250		754,850			2,709
20　（ 19）	120,500		956,955			30
21　（ 20）	129,550		3,935,292		436,632	
22　（ 21）	133,450		5,602,589	1,000,000	927,847	
23　（ 22）	144,700		7,644,438	5,700,000	595,978	
24　（ 23）	144,700		6,349,490	8,500,000		2,052,408
25　（ 24）	144,700		9,510,958	15,000,000		502,848
26　（ 25）	635,500		19,139,633	35,000,000	2,077,701	467,393

Hosei University Repository

販売代金損失引当金 未払販売代金	建物償却積立金 魚市場特別積立金	準備金	仮受金	その他雑勘定	本年度剰余金	合計
円	円	円	円	円	円	円
			1			53,771
	11,238	117	1,513			158,885
100	11,238	254	1,193		4,086	161,185
100	11,238	295	2,112		1,588	196,847
	11,238	700	4,606		5,143	266,332
15	11,238	2,021	3,980		538	237,545
	11,238	2,194	1,938		903	287,559
	11,238	2,422	2,526		2,945	265,869
	11,238	3,168	2,590		1,569	251,882
	11,238	3,605	5,551		784	356,251
6,675	11,238	3,819	25,716	8,973	23,939	449,477
3,000	19,049	9,821	26,231	8,302	32,356	531,857
5,962	24,048	17,926	20,834	7,631	35,842	520,091
7,962	29,048	26,931	24,762	6,783	48,765	644,486
13,551	34,048	39,936	60,911	7,181	68,486	1,104,375
554	39,048	57,939	53,925	8,839	68,282	1,411,132
24,227	44,048	75,940	55,146	9,275	37,908	1,502,873
32,048	49,048	85,957	29,407	11,730	35,491	1,499,412
	50,048	94,834		295,307	50,007	1,364,005
	51,048	107,835		289,868	33,004	1,559,240
793,535	72,048	116,140		193,273	306,085	5,982,555
499,835	102,048	150,141		3,718,885	67,318	12,202,113
559,735	102,048	239,601		6,416,250	200,086	21,602,836
548,185	182,048	459,600		2,277,865	118,918	20,633,214
496,535	182,048	469,601		2,324,264	299,358	28,930,312
13,080,670	4,154,942	600,000	1,777,893		936,537	77,870,269

気仙沼水産倉庫「各年度事業成績報告書」より作成。

Hosei University Repository

昭和16年7月15日の鮮魚貝出荷統制規則で鮮魚は配給制になり，また原料不足・低物価政策と食料増産政策との矛盾に業界は苦しめられた。原料鰹は鰹節製造所へ割当制になり，組合の鰹節保管期間も食糧不足から短かくなった。練製品は薩摩揚が好況で往時の竹輪蒲鉾にとって代わった。魚市場水揚高は948万余円を記録するが魚獲量は減少しており，異常な魚価高騰の結果である。この年組合は年度末残高で払込済出資金9万余円，準備金7万余円，諸積立金4万余円で自己資金21万余円となり，創設以来続いてきた借入金は本年度をもって完済した（**表1**）。また預貯金年度末残高101万余円に対し貸付金は僅か9万余円と，資材不足下で投資条件が整わない閉塞的時代状況が続いた。

昭和17年度，遠洋漁業は資材不足の上に漁場が戦場と化し，製造業では原料配給制に加え出荷統制がしかれた。魚市場水揚高は784万余円だったが，販売手数料は3%に引下げられた。鰹節製造は戦時下の労働力不足で組合への加工委託が増えた。

昭和18年，鰹と大敷網の鮪が豊漁で，加工委託の鰹節が繁忙であった。しかし練製品は原料・副原料ともに不足し，鰛締粕は鰛が不漁で加工にまでまわらなかった。

昭和19年度は大敷網の鮪と鱈の他はさしたる成果がなく，組合倉庫も配給米の保管などに使用される状態であった。組合員の預貯金95万余円も投資先が見出せぬ状況で，預金運用金85万余円を宮城県信用組合連合会等へ預金する逼塞的状態が続いた。

昭和20年度は，大戦後の未曽有の魚価高騰とまた稀有の大漁で，魚市場水揚高は高物価の下ではあるが，1,844万余円と開設以来最高をしるした。しかし当地主要漁業の鰹漁だけは不振で，組合倉庫は委託品の入庫がほとんどなく，僅かに鮫鰭の乾燥保管で名目を保つさびしさであった。

昭和21年度はインフレーション進行の下，魚市場水揚高は6,319万余円だったが資材不足や輸送の支障に苦しんだ。組合にある組合員の預貯金が昭和21年3月から金融緊急措置令による預金封鎖にかかり，一時は事業資金にも窮した。組合倉庫は鰹が塩蔵や生利で出荷されることが多かったので，委託品はほとんどなかった。

昭和22年，資材不足は相変わらず続いたがインフレーションは沈静にむかい，鰛・延縄はじめ漁業は一般に好況で魚市場水揚高が2億余円になった。組

Hosei University Repository

合は組合員への貸付金の調達を系統機関の融資に求め，鰹が豊漁で組合への委託品が増加し3年間の不振をとりもどした。

昭和23年度，魚市場水揚量は前年度を下まわったが水揚高は4億余円であった。この年消費が低下し，インフレーション対策としての金融政策で組合員は資金調達に苦慮し，組合は系統機関および指定金融機関からの借入を増額した。秋刀魚が豊漁だが鰹が不漁で組合倉庫への委託品はまた減少した。

昭和24年度，経済再編9原則による経済安定化への諸施策は，また中小企業の窮乏，消費購買力の低下，資金調達の困難等不安定な経済環境をもたらした。組合の購入品売渡掛金や受託販売掛金がこれまでになく多額にのぼった。魚市場水揚高は，集魚灯の普及で豊漁になった秋刀魚と鰹を中心に7億余円に達した。しかし一方では組合の利用事業が初期のような成績をあげられなくなったのは，鰹節の大衆需要が往時ほどではなくなってきたことと無関係ではない。

昭和25年4月に鮮魚出荷統制が撤廃され自由販売になった。魚市場は新規に200余名の仲買業者を増員し，水揚高は14億余円だった。これまで組合は組合員の取引決済の資金的支援を通じて業界の発展に貢献してきたが，一方資金力の不足から「漁業家に対する事業資金の融資ができなかったことは当組合としても甚だ遺憾」(5) というように，またここに限界があった。昭和25年9月30日をもって気仙沼水産倉庫は気仙沼漁業協同組合に改組され，魚市場を含む水産倉庫の一切の業務および債権・債務は気仙沼漁業協同組合に引継がれた。

以上26年間にわたる気仙沼水産倉庫の事業と経営を時間を追って通覧したが，つぎに水産倉庫の事業と気仙沼の漁業との関係についてみよう。

気仙沼水産倉庫が発足した大正14年，気仙沼が大消地から遠隔で市場圏が狭いという立地条件から，組合は出荷物を付加価値の高い水産加工品に重点をおく選択をした（**表6・8**）。それは当地水産業界の二本柱の一つである鰹節の微付仕上加工を製造所から受託し，組合の名称にもなっている倉庫で出荷まで保管する。そして保管中の鰹節を担保に委託製造業者に貸付を行い，鰹節製造業の振興とそれを通じての鰹漁業の発達に寄与し，一時は当地鰹節の約半分を組合は扱った。しかし鰹は漁況が不安定で鰹節は価格の変動が大きかった。もう一つの柱竹輪蒲鉾では，組合は砂糖・澱粉等副原料の組合員製造所への供給（**表7**）と，売上代金の中央金庫による代手取立と組合預貯金口座をもとにし

Hosei University Repository

表2　気仙沼水産倉庫各年度損益計算書（利益の部）

年度	有価証券配当金 貸付金預金利息	購買益金販売手数料 魚市場余剰金	利用料	雑収入	前年度繰越金	合計
	円	円	円	円	円	円
1年（大正 14）	212					212
2（昭和 1）	2,169	3,848	11,106	12		17,135
3（ 2）	6,633	6,421	19,094	122		32,270
4（ 3）	7,161	6,945	18,075	187	76	32,444
5（ 4）	11,364	8,832	19,419	253	79	39,947
6（ 5）	13,205	2,657	9,432	1,133	510	26,937
7（ 6）	13,149	3,593	10,043	640	362	27,787
8（ 7）	14,598	5,672	4,101	325	113	24,809
9（ 8）	13,690	4,705	5,890	296	48	24,629
10（ 9）	11,347	5,255	2,649	465	11	19,727
11（ 10）	9,834	27,637	3,149	3,218	586	44,425
12（ 11）	11,070	34,362	3,819	1,268	935	51,454
13（ 12）	13,149	34,116	5,526	9,730	2,455	64,976
14（ 13）	23,887	44,637	5,167	1,292	3,772	78,753
15（ 14）	27,315	70,006	5,984	1,681	2,325	107,311
16（ 15）	43,221	72,105	6,661	2,404	3,356	127,747
17（ 16）	47,782	38,029	3,858	1,223	2,939	93,831
18（ 17）	33,480	914,320	22,115	39,122	1,838	1,010,875
19（ 18）	36,677	542,982	38,489	87,339	103	705,590
20（ 19）	29,048	431,859	43,761	135,369	9,336	649,373
21（ 20）	42,192	1,539,872	43,947	262,010	1,693	1,889,714
22（ 21）	109,759	2,006,918	605,205	79,962	153,856	2,955,700
23（ 22）	345,332	3,978,491	2,957,480	9,530	71,716	7,362,549
24（ 23）	254,595	1,660,344	6,185,732	10,699	20,330	8,131,700
25（ 24）	217,129	1,319,777	6,396,034	52,121	5,236	7,990,297
26（ 25）	109,592	17,091,204	219,105	72,842		17,492,743

Hosei University Repository

表2　（損失の部）

年度	貯金・借入金利息	退職積立金	給料・賃金	事務費・会議費	漁船奨励金	販売・購買諸費	雑費	合計
	円		円	円	円	円	円	円
1年（大正 14）			294	85			483	862
2（昭和 1）	5,271		11,683	2,744		197	304	20,199
3（ 2）	7,115		17,124	3,451		128	632	28,450
4（ 3）	8,950		16,251	4,783		119	793	30,896
5（ 4）	11,113		17,729	5,361		37	574	34,814
6（ 5）	11,141		10,754	3,236		373	525	26,402
7（ 6）	12,472		10,700	3,023		180	509	26,884
8（ 7）	11,571		6,615	3,067		110	501	21,864
9（ 8）	10,450		7,826	3,825		122	837	23,060
10（ 9）	9,909		5,169	2,968		122	775	18,943
11（ 10）	8,078		4,232	8,029		26	221	20,586
12（ 11）	6,902		4,746	7,013		79	357	19,097
13（ 12）	15,799		5,780	6,621		546	387	29,133
14（ 13）	15,283		6,588	5,512		2,039	565	29,987
15（ 14）	20,256		8,146	9,283		330	810	38,825
16（ 15）	34,690		11,081	12,160		311	1,223	59,465
17（ 16）	23,150		13,521	15,787		1,163	2,303	55,924
18（ 17）	16,471		340,349	144,761		453,061	20,742	975,384
19（ 18）	12,375		337,460	194,282		66,105	45,350	655,582
20（ 19）	14,187		310,769	147,841		105,797	37,775	616,369
21（ 20）	43,537		558,088	384,289		549,342	48,373	1,583,629
22（ 21）	70,099		921,878	1,353,478		288,296	236,251	2,870,002
23（ 22）	381,918		2,256,576	3,196,294		170,961	522,701	6,528,450
24（ 23）	438,045		3,069,500	3,862,482		220,464	422,291	8,012,782
25（ 24）	187,110		4,299,073	2,619,735		156,939	428,082	7,690,939
26（ 25）	1,917,555		4,118,024	9,318,055		476,269	726,303	16,556,206

気仙沼水産倉庫「各年度事業成績報告書」より作成。

Hosei University Repository

表3 気仙沼水産倉庫各年度剰余金処分

年度	本年度剰余金	準備金・積立金	配当金	配当金の出資金に対する割合	特別配当金役員賞与	次年度繰越金
	円	円	円	%	円	円
1年（大正 14）	△650					△650
2（昭和 1）	△3,714					△3,714
3（ 2）	106	30				76
4（ 3）	1,587	402	596	0.9	510	79
5（ 4）	5,143	1,321	1,573	2.4	1,740	509
6（ 5）	535	173				362
7（ 6）	903	790				113
8（ 7）	2,944	1,307	1,040	1.6	549	48
9（ 8）	1,569	954	363	0.6	240	12
10（ 9）	784	198				586
11（ 10）	23,939	11,485	2,624	3	8,895	935
12（ 11）	32,356	13,600	3,329	3.3	12,972	2,455
13（ 12）	35,843	15,000	4,051	4	13,020	3,772
14（ 13）	48,766	20,000	4,560	4.4	21,881	2,325
15（ 14）	68,486	25,000	4,988	4.6	35,142	3,356
16（ 15）	68,282	28,500	5,463	5	31,380	2,939
17（ 16）	37,907	24,800	5,752	5.2	5,518	1,837
18（ 17）	35,491	21,312	6,128	5.3	7,947	104
19（ 18）	50,008	14,000	6,365	5.4	20,306	9,337
20（ 19）	33,004	14,600	6,712	5.6	10,000	1,692
21（ 20）	306,085	214,000	7,229	6.6	81,000	3,855
22（ 21）	85,698	85,698				0
23（ 22）	834,098	170,000	8,682	6	72,790	20,330
24（ 23）	118,917	55,000	8,682	6	50,000	5,235
25（ 24）	299,358	175,000	14,470	10	100,000	9,888
26（ 25）	936,537	744,068	31,775	20	150,000	10,694

気仙沼水産倉庫「各年度事業成績報告書」より作成。

Hosei University Repository

た当座貸越を行い取引勘定上の便宜をはかった。

以上のような組合の利用・購買事業にはかなりの成果があったが，信用事業では年間延 40～70 万円の中央金庫からの借入は商取引の為替決済にあてられ，設備資金の長期貸付は年度末残高で 6～15 万円にすぎない（**表 5**）。これを鰹船の場合でみると，昭和 5～10 年頃の 40～80 トン級新造船価が 5～8 万円[6]とすれば，自己資本率 50%として 3～5 隻分にすぎない。そこでこれを中古船の場合で考えると船価は 5,000～2 万円となり，15～25 隻の調達が可能である。実際気仙沼では当時鰹漁先進地の静岡県焼津から，40～50 隻の中古船を購入して操業した[7]。

組合が魚市場業務を開始したのは昭和 10 年（組合の会計年度では昭和 9 年度の末期）だが，これには冷凍技術と交通の発達（昭和 4 年国鉄大船渡線開通），鮮魚価格の好況（低費用との相対的価格差），漁船大型化と大量生産（低費用と安定供給），倉庫業経営の限界等の背景があった。そして従来の立地上の制約を打破し市場圏を拡大するには，魚市場の開設による流通の近代化（物流システムと仕切金決済）は不可欠だった。しかしこれまで流通の中心にすわってきた問屋権益の処遇について調整に手間どり，ようやく問屋 3.7%（新問屋 2%），仲買人 2%の販売手数料の歩戻しで落着した。したがって組合の手数料手取りは

市場手数料 0.08（機船底引網 0.1）
－問屋歩戻し 0.037 － 仲買人歩戻し 0.02 ＝ 0.023

の 2.3%で，この他に余剰金がある時は各問屋・仲買人に 0.1%の交付金，全組合員に 0.1%の配当金を支払うことになった。当初独立会計で出発した魚市場会計の手数料組合取得額は 10～25 万円で，組合経常予算（50～150 万円）の 15～20 をしめた（**表 1・2**）。しかし大戦中から大戦直後は統制経済（昭和 16 年 7 月より鮮魚貝は統制配給制となる）およびインフレーションで，正常な市場活動は不可能な時代であった。しかし大量の鮮魚貝集出荷の実績が，昭和 25 年 4 月経済統制廃止後の水産業発展の基盤を形成したことを見逃すことはできない。

魚市場開設以前に鮮魚貝集出荷を担っていた問屋は，販売額の 10%を委託手数料として得ていた。魚市場開設による問屋の対応は，地元外船の入港水揚を誘致するばかりでなく，自己資金により漁船の直接経営を推進した。当地の

Hosei University Repository

表4 気仙沼水産倉庫各年度

年度	産業組合中央金庫			宮城県信用組合連合会			日本
	各年度借入金	各年度償還金	年度末残高	各年度借入金	各年度償還金	年度末残高	各年度借入金
	円	円	円	円	円	円	円
1年(大正14)							
2 (昭和 1)	108,700	44,000	64,700				
3 (2)	261,000	269,200	56,500				
4 (3)	265,500	284,000	38,000				10,000
5 (4)	433,484	441,484	30,000	60,000	55,000	5,000	
6 (5)	261,087	261,087	30,000	50,000	50,000	5,000	
7 (6)	444,429	403,920	70,509	95,000	75,000	25,000	
8 (7)	617,085	632,594	55,000	125,460	130,460	20,000	
9 (8)	519,472	531,472	43,000	85,800	88,300	17,500	
10 (9)	704,817	627,817	120,000	118,100	115,600	20,000	
11 (10)	1,334,264	1,334,264	120,000	169,607	189,607	0	
12 (11)	936,569	958,149	98,420	45,000	35,000	10,000	
13 (12)	784,806	786,900	96,326	0	10,000	0	
14 (13)	226,306	301,952	20,680				
15 (14)	0	5,320	15,360				
16 (15)	0	0	15,360				
17 (16)	0	15,360	0				

Hosei University Repository

借入金とその償還

勧業銀行		宮城県農工銀行			合計		
各年度償還金	年度末残高	各年度借入金	各年度償還金	年度末残高	各年度借入金	各年度償還金	年度末残高
円	円	円	円	円	円	円	円
					108,700	44,000	64,700
					261,000	269,200	56,500
0	10,000				275,500	284,000	48,000
374	9,626	60,000	0	60,000	553,484	496,858	104,626
782	8,004		0	60,000	331,087	311,869	103,844
840	8,004		6,178	53,822	539,429	485,938	157,335
866	7,138		3,215	50,607			132,745
946	6,192		6,749	43,858			110,550
997	5,194		7,147	36,711			181,905
1,051	4,143		11,378	25,333			149,476
1,112	3,031		8,072	17,261			128,713
9,621	10,671	（日本勧業銀行に吸収合併）					111,244
10,671	0						24,926

気仙沼水産倉庫「各年度事業成績報告書」より作成。

Hosei University Repository

表5 気仙沼水産倉庫各年度

年代	無担保		有担保				
	各年度貸付金	年度末残高	各年度貸付金	不動産	鰹節・鮫鰭・明骨入庫品	年度末残高	鰹節・鮫鰭・明骨入庫品
	円	円	円	円	円	円	円
1年(大正14)							
2 (昭和 1)	28,806	7,519	73,499		73,499	21,813	21,813
3 (2)	139,792	14,521	174,935		174,935	20,139	20,139
4 (3)	174,279	31,157	206,602		206,602	31,914	31,914
5 (4)	212,874	48,504	268,142			66,435	
6 (5)	192,919	59,386	131,491			55,133	
7 (6)	197,476	59,690	185,178			91,500	
8 (7)	210,819	62,388	252,800	38,567	214,233	62,705	
9 (8)	255,104	56,285	259,999	79,406	180,593	57,597	
10 (9)	292,885	58,758	283,432	127,660	155,772	49,443	
11 (10)	418,512	60,627	450,140	16,937	433,203	50,719	
12 (11)	430,009	82,765	843,526	303,534	539,992	58,729	
13 (12)	298,472	104,480	922,909	37,347	885,562	87,091	
14 (13)	249,201	75,784	1,182,127	31,713	1,150,414	86,939	
15 (14)	56,707	59,302	1,188,818	62,123	1,126,295	40,138	
16 (15)	237,951	70,246	895,569	63,594	831,975	37,778	
17 (16)	250,299	61,317	449,640	288,164	161,476	32,609	
18 (17)	414,240	96,587	297,291	46,993	282,906	18,538	

Hosei University Repository

貸付金とその償還

用途別貸付							
漁業資金		製造資金		取引資金		罹災工場復興資金	
各年度貸付金	年度末残高	各年度貸付金	年度末残高	各年度貸付金	年度末残高	各年度貸付金	年度末残高
円	円	円	円	円	円	円	円
	11,920		26,848		24,004		
	(漁業・製造残高)		48,619		20,820		45,500
	(同)		62,962		19,776		31,782
	(同)		95,551		27,540		28,099
67,222		152,445		243,951			
64,586		245,049		205,490			
86,447		259,343		230,527			
133,530		350,237		384,885			
256,586		495,837		521,111			
93,790		153,512		974,079			
118,640		218,085		1,094,602			
94,382		202,803		1,078,340			
134,843		166,854		831,823			
195,800		145,050		359,089			
261,588		201,272		342,599			

気仙沼水産倉庫「各年度事業成績報告書」より作成。

Hosei University Repository

表 6　気仙沼水産倉庫各年度受託販売高

年度	鰹節	鰮締粕	鮮魚貝	魚油	魚類肝臓	竹輪蒲鉾	合計
	円	円	円	円	円	円	円
1年（大正 14）							
2（昭和 1）	2,740						2,740
3（ 2）	18,747						18,747
4（ 3）	19,251						19,251
5（ 4）	3,332						3,332
6（ 5）	2,345						2,345
7（ 6）							
8（ 7）		104,467					104,467
9（ 8）		24,728					24,728
10（ 9）		45,658	103,894				149,552
11（ 10）		87,642	3,555,922			3,475	3,647,039
12（ 11）		46,396	4,217,893			137	4,264,426
13（ 12）		16,288	4,249,283	2,538		565	4,268,674
14（ 13）		52,907	5,259,416	39,400		655	5,352,378
15（ 14）		100,580	7,808,527	15,409	215,157	（鮫鰭）	8,189,135
16（ 15）		156,022	9,070,539	4,153	324,637	36,699	9,596,481
17（ 16）		39,916	9,484,410		67,618		9,610,200
18（ 17）		2,818	7,844,274		89,482		7,976,982
19（ 18）		1,624	5,512,141		88,974		5,658,545
20（ 19）							
21（ 20）			18,441,922				
22（ 21）			63,194,253				
23（ 22）			238,164,000				
24（ 23）			483,974,000				
25（ 24）			722,437,000				
26（ 25）			1,459,933,818				

気仙沼水産倉庫「各年度事業成績報告書」より作成。

Hosei University Repository

表 7　気仙沼水産倉庫各年度購買品売卸高

年度	砂糖	澱粉	味醂	漁網・綿糸	竹輪・蒲鉾函	鰹節樽	その他とも合計
	円	円	円	円	円		円
1年（大正 14）							
2（昭和 1）	12,892	5,844	8,389		9,004		38,491
3（ 2）	19,430	12,987	15,639		32,874		62,477
4（ 3）	18,806	14,172	14,861		13,563		65,262
5（ 4）	27,195	22,445	18,688		12,756		104,900
6（ 5）	10,928	7,639	5,641		4,670		31,122
7（ 6）	20,041	19,690	11,447		542		55,371
8（ 7）	26,534	33,880	5,540		992		67,537
9（ 8）	34,556	25,263	3,184		253		63,303
10（ 9）	45,396	37,096	8,037				92,755
11（ 10）	59,741	49,968	9,565	7,996			129,718
12（ 11）	40,046	35,810	8,705	24,017			115,819
13（ 12）	34,521	22,531	7,085	13,909			85,220
14（ 13）	24,680	20,995	4,178	12,724			65,594
15（ 14）	42,147	45,213	8,029	3,393			109,886
16（ 15）	15,146	70,735	6,216	4,650	111,557		245,336
17（ 16）	8,792	23,205	3,049	636	232,340		368,930
18（ 17）	7,926	11,057	1,092		177,395		495,340

気仙沼水産倉庫「各年度事業成績報告書」より作成。

Hosei University Repository

表8 気仙沼水産倉庫各年度

年度	入庫品（加工前）数量						
	鰹本荒節	鰹亀荒節	鰹本裸節	鰹亀裸節	鰹本微付節	鰹亀微付節	鮫生鰭
	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
1年(大正14)							
2（昭和 1）	7,145	7,509	252	170	1,094	2,502	4,251
3（ 2）	9,759	13,468	233	404	3,152	5,807	7,048
4（ 3）	13,322	8,196	1,500	1,730	567	832	3,453
5（ 4）	10,335	10,070	1,827	1,335	2,569	408	
6（ 5）	4,190	6,860	257	927	55	55	
7（ 6）	4,641	8,599	4,713	5,656	1,917	2,163	
8（ 7）	1,693	1,134	2,543	2,507	2,180	2,956	
9（ 8）	929	4,451	1,260	4,197	417	1,442	
10（ 9）			2,796	5,414	1,500	1,268	
11（ 10）			5,891	11,126	739	821	
12（ 11）			6,068	22,607	606	2,014	
13（ 12）	903	8,729	2,705	14,514	104	1,574	
14（ 13）	283	6,814	1,825	10,472	255	708	
15（ 14）	324	1,979	5,373	19,439	339	960	
16（ 15）	169	2,647	3,933	13,914	97	192	
17（ 16）	14	814	4,435	21,693			
18（ 17）	73	236	2,976	39,567	106	1,915	
19（ 18）							

注 1） *印は推定。
2） 利用料は昭和5年25%，昭和6年20%，昭和7年20%それぞれ前年より引下げられた。
3） 鰹節10貫=1樽。

Hosei University Repository

設備使用量と利用料収益

入庫品（加工後）数量			利用料		倉庫保管品数量			
鰹本節	鰹亀節	鮫鰭	鰹節加工料	倉庫保管料	鰹節	鮫鰭	明骨	鯖節
貫	貫	貫	円	円	貫	貫	貫	貫
6,805	8,379	1,366	10,125	798				
19,422・		2,119	16,884	1,874	17,000・			
11,507	8,805	882	15,440	2,217				
12,043	13,141		17,615	1,803				
3,474	7,572		7,534	1,898	11,045	27,818	1,126	
9,400	13,400		8,173	1,870	33,000	24,000	1,147	
5,887	5,864		2,592	1,508	19,800	24,752	1,456	
2,218	8,520		3,529	2,361	22,700	42,303	280	
3,968	6,152		1,023	1,626	20,240	32,006		
1,689	3,724		1,389	1,760	25,530	28,065		
1,826	15,821		2,413	1,400	59,280	19,224	991	1,809
3,254	21,406		2,678	2,685	38,880	20,496	866	165
2,101	15,339		1,776	3,366	39,540	25,990	256	107
5,571	20,267		2,533	3,445	35,530	57,352	42	
3,740	14,904		2,033	4,638	20,180	61,502		2,877
4,102	20,502		1,882	1,976	28,120	30,821		2,196
3,155	41,718		6,343	3,935	40,280	22,615		
			4,257	7,561	117,760	15,290		

気仙沼水産倉庫「各年度事業成績報告書」より作成。

Hosei University Repository

表9 気仙沼地区昭和6・10年の

船主	居所	兼業種	昭和6		
			船名	総トン数	漁業種
内海米治 ○内海康	気仙沼	問屋加工	2弁天 5弁天 1弁天	t 西洋型20 西洋型20 日本型15	鰹釣 鮫刺網 鰹釣
○尾形和太郎	気仙沼	問屋加工 出荷	1富久	西洋型46	鰹釣
○木田豊吉	気仙沼	問屋加工 出荷	3豊 2増徳	西洋型61 西洋型44	鰹鮪 鰹鮪
○菅野留太郎	気仙沼	問屋加工 出荷			
○小松安治	気仙沼	加工出荷	春日	折衷型21	鰹釣
○斎藤福三郎	気仙沼	問屋加工 出荷	成田 不動 文珠	折衷型20 折衷型29 西洋型11	鰹釣 鰹鮪 鰹釣
○斎藤玉吉	気仙沼	問屋出荷			
○清水三蔵	気仙沼	問屋加工	3太平	西洋型30	鰹鮪
○菅原長之助	気仙沼	問屋加工			
○高田茂平治	気仙沼	問屋加工	嘉福	西洋型16	鰹鮪
○高橋喜右衛門	気仙沼		1観音	折衷型20	鰹釣
○畠山清治	気仙沼	問屋加工 出荷	2勢進 5八幡 2大日 1八幡 新興	西洋型40 西洋型30 西洋型12 西洋型15 日本型10	鰹釣 鰹釣 目抜延縄 鮪延縄 柔魚釣

Hosei University Repository

20 トン以上動力付漁船

年		昭和 10 年				
建造年	船価	船名	総トン数	漁業種	建造年	船価
	円		t			円
大正 13	15,000					
昭和 5	10,000	(同左) 5 弁天				
大正 6	3,000					
		2 鈴吉	西洋型 55	鰹 鮪	昭和 3	
大正 8	4,000					
		勢栄	西洋型 55	鰹 鮪	昭和 3	
大正 13	20,000					
大正 8	20,000	(同左) 2 増徳				
		3 華洋	西洋型 23	鰹 鮪	大正 12	4,500
		神光	西洋型 120	鰹 鮪	大正 13	
		豊	西洋型 61	鰹 鮪	昭和 5	23,250
		大久	西洋型 89	鰹 鮪	昭和 7	
大正 10	4,000					
大正 12	5,000					
大正 13	12,000					
大正 3	5,000					
		不動	西洋型 62	鮫刺網	大正 13	12,000
		1 福久	西洋型 48	鰹 鮪	大正 13	
大正 14	5,000	(同左) 3 太平				
		天王	西洋型 55	鰹 鮪	昭和 3	
大正 12	4,000					
		八千代	西洋型 69	鰹 鮪	大正 13	
		大黒	西洋型 18	目抜延縄	大正 12	
大正 11	10,000					
大正 15	12,000	(同左) 2 勢進				
昭和 2	22,000					
大正 7	3,700					
大正 10	6,500					
大正 11	1,500	(同左) 新興				
		海宝	西洋型 86	鰹 鮪	大正 13	
		八幡	西洋型 11	鱈延縄	昭和 8	

Hosei University Repository

（表9　つづき）

船　主	居　所	兼業種	昭和6		
			船　名	総トン数	漁業種
				t	
○宮井繁太郎	気仙沼	問屋加工 出荷	大　宮 2宮　島	西洋型　58 折衷型　16	鰹　釣 鰹　釣
○宮井丑松 ○宮井龍太郎	気仙沼	問屋出荷	日　東	西洋型　20	目抜延縄
○村上米治 ○村上直治	気仙沼	問屋加工 出荷	春　日 1観　音 3観　音 2春　日 2太　平 海　形	西洋型 118 西洋型　26 西洋型　29 西洋型　19 西洋型　56 西洋型　86	鰹　釣 鮪延縄 鮪延縄 鰹　釣 鰹　釣 鰹　釣
○村田兵治郎	気仙沼	問屋出荷			
大島村漁業組合	大　島				
小野寺徳之進	大　島				
小山彦治	大　島		丈　喜	西洋型　38	鰹　釣
○小山文市	大　島		万　喜 共　栄	西洋型　38 西洋型　90	鰹　釣 鰹　釣
村上市三郎	大　島		改　正	西洋型　39	鰹　釣
村上清七	大　島		愛　鷹 清　寿 恵比寿	西洋型　41 西洋型　84 西洋型　19	鰹　釣 鰹　釣 鰹　釣
○亀谷秋蔵	唐　桑				
尾谷一義	唐　桑	加工農業			
小松敞平	唐　桑		春　日	西洋型　25	巾着網
鈴木哲朗 ○鈴木市之進	唐　桑	加工	3千代田	西洋型　34	鰹　釣

Hosei University Repository

年		昭　和　10　年				
建造年	船　価	船　名	総トン数	漁業種	建造年	船　価
	円		t			円
昭和 5 大正 11	37,500 7,300	(同左) 大　宮				
	3,000	丈　喜	西洋型 38	鰹　鮪	大正 6	
大正 8 大正 9 大正 13 大正 10 昭和 5 昭和 6	23,700 12,000 17,500 4,500 20,000 20,000	(同左) 海　形 1 建　正 大　晴 2 観　通	 西洋型 56 西洋型 94 西洋型 15	 鰹　釣 鰹　釣 鮫刺網	 昭和 3 昭和 9 大正 6	 5,000
		明　勢	西洋型 86	鰹　鮪	大正 12	
		大　新	西洋型 133	鰹　鮪	昭和 10	100,000
		全　勝	西洋型 37	鰹　鮪		
大正 6	7,000					
大正 6	4,000 45,000	(同左) 共　栄				
大正 6	4,000					
大正 7 大正 12	7,500 11,300 3,000	(同左) 清　寿				
		2 東　洋	西洋型 49	鰹　釣	大正 13	
		稲　荷	西洋型 62	鰹　鮪	昭和 8	26,000
昭和 5	4,000	文　珠	西洋型 11	巾着網	大正 12	
大正 7	25,000	(同左) 3 千代田 大　栄 7 千代田	 西洋型 85 西洋型 19	 鰹　釣 巾着網	 大正 12 明治 44	 52,000

Hosei University Repository

（表9　つづき）

船　主	居　所	兼業種	昭　和　6		
			船　名	総トン数	漁業種
鈴木清七	唐　桑	加　工		t	
○鈴木平兵衛	唐　桑	加　工	3 金比羅 2 福　吉	西洋型 26 西洋型 46	鰹　釣 鰹　釣
○鈴木好雄	唐　桑		2 琴　平	西洋型 30	鰹　釣
○鈴木与四之進	唐　桑				
○鈴木和三郎	唐　桑		亀　宝 5 喜　与	西洋型 41 西洋型 25	鰹　釣 鰹　釣
○畠山政市	唐　桑	加工農業	2 愛　鷹	西洋型 46	鰹　鮪
畠山清助	唐　桑		2 恵比寿	西洋型 29	鰹　釣
畠山作平	唐　桑	加工農業	2 日ノ出	西洋型 49	鰹　鮪
○三上高治 ○三上文蔵	唐　桑		滝　之	西洋型 30	鰹　釣
○山崎政治郎	唐　桑		2 福　一	西洋型 37	鰹　釣
○吉川弘之	唐　桑	加　工			
浅野清松	松　岩		2 愛　鷹	西洋型 38	鰹　釣
尾張米治	松　岩				
小松美代助	鹿　折		遠　洋	西洋型 20	巾着網

注　1）　船主欄の○印は，気仙沼水産倉庫組合員を示す。
　　2）　本表の船主（20 トン以上の漁船所有者）が所有する 10 トン以上の全漁船を示す。したがって本表は当地の 10 トン級漁船については，その一部を収録するにすぎない。
　　3）　船価は，造船価格・減価償却後の資産価格・中古船買取価格が混在していると思われるが，原典のまま記す。

Hosei University Repository

年		昭　和　10　年				
建造年	船　価	船　名	総トン数	漁業種	建造年	船　価
	円		t			円
		2大　洋	西洋型 57	鰹　鮪	大正 9	20,000
大正 4 大正 9	5,500 14,000	(同左) 2福　吉 3金比羅 3福　吉	 西洋型 25 西洋型 89	 鰹　釣 鰹　釣	 大正 15 昭和 9	 1,800 45,000
大正 15	15,000	松　生	西洋型 41	鰹　釣	大正 13	
		2富　久	西洋型 46	鰹　釣	大正 8	
大正 3 大正 15	83,000 20,000	(同左) 5喜　与 2亀　宝 喜　与	 西洋型 49 西洋型 16	 鰹　鮪 鮫刺網	 大正 13 昭和 9	 42,000 5,800
大正 13	36,000	3愛　鷹 副　寿	西洋型 46 西洋型 63	鰹　釣 鰹　釣	大正 14 大正 12	
大正 14	18,000					
大正 10	35,000					
大正 12	15,000	新　盛	西洋型 56	鮫延縄	昭和 10	4,700
大正 10	20,000	(同左) 2福　一 海　草	 西洋型 60	 鰹　釣	 昭和 3	 40,000
		甚　生 宝　生	西洋型 34 西洋型 79	梶木延縄 鰹　釣	大正 13 大正 14	
大正 5	4,200					
		清福久	西洋型 35	鮪延縄	大正 13	7,800
		2春　日	西洋型 19	巾着網	大正 13	15,000

農林省水産局『動力付漁船船名録（昭和 8・12 年版）』および「本稿(1)」表 3 より作成。

Hosei University Repository

漁業の発達は，これまでも問屋（多くが加工業を兼業する）がそのかなめになっていたが，この時も問屋を中心に展開していった（**表 9**）。また当時この他に，気仙沼に隣接する大島村や唐桑村にも船主経営者が多数存在し，その多くは地元の素封家だが，水揚地気仙沼の問屋との関係は如何であっただろうか，これについては若干の指摘もある[8]。また大戦後の水揚倉庫の経常予算の内，売掛金・未決済勘定が 2,000～5,000 万円で過半を占めるのに（**表 1**），一方貸付金は 200～300 万円にすぎない。鰹船の場合，昭和 21～25 年頃の 100～200 トン級の新造船価は 400～800 万円[9] なので，この貸付金には設備融資としての実質的効果はあまりなかったとみられる。したがって漁船大型化・複船経営等気仙沼漁業の戦後の展開は，問屋船主を中心にした船主層により，経済統制が廃止される昭和 25 年水産倉庫から移行した気仙沼漁業協同組合を通じて，系統資金の運用をはかりながら進められていったのである。（未完）

注

（1） 鰹節製造については次に詳述あり。気仙沼漁業協同組合『気仙沼漁業協同組合史』同組合　昭和 60 年　77～93 頁。

（2） 竹輪蒲鉾製造については次に詳述あり。
前掲書（1）93～114 頁。

（3） 気仙沼水産倉庫「昭和 4 年度事業成績報告書（第 6 回）」。

（4） 魚市場開設については次に詳述あり。
前掲書（1）186～256 頁。

（5） 気仙沼水産倉庫「昭和 25 度事業成績報告書」。

（6） 拙稿「静岡県焼津における鰹漁業の発達と東海遠洋漁業株式会社」法政大学教養部紀要　55 号　昭和 60 年　29～57 頁。

（7） 小松宗夫『海鳴りの記―三陸漁業のあゆみ―』宮城県北部鰹鮪漁業協同組合　昭和 49 年　295 頁。

（8） 問屋の業務には漁船の水揚・仕込みの代行とともに漁船建造資金の融資があったとの報告があるが，実証までには至っていない。
漁業協同組合経営調査委員会「漁業協同組合経営調査報告」水産庁・全国漁業協同組合連合会　昭和 33 年。
宮島宏志郎「水産物生産地卸売市場の形成」商学論集　第 37 巻第 3 号　昭和 43 年　135～169 頁。

（9） 拙稿「経済成長下における静岡県焼津遠洋漁業の経営変化」法政大学教養部紀要　87 号　平成 5 年　63～85 頁。